

## 九重山の火山活動解説資料（平成 28 年 10 月）

福岡管区气象台

地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められませんが、GNSS<sup>1)</sup> 連続観測によると、一部の基線で伸びの傾向が認められますので、今後の火山活動の推移に留意してください。  
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 10 月の活動概況

#### ・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 2-①③）

遠望観測では、硫黄山付近で白色の噴煙が最高で噴気孔上 200m まで上がりました。

#### ・地震や微動の発生状況（図 2-②④、図 3）

火山性地震の月回数は 5 回（9 月：13 回）と少ない状態で経過しました。このうち震源が決まったのは 1 回で、三俣山の北側の海拔下約 1 km でした。

火山性微動は 2006 年 10 月以降、観測されていません。

#### ・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GNSS 連続観測では、坊ガツルー牧ノ戸峠、星生山北山腹ー坊ガツル、星生山北山腹ー直入 A の基線で、2012 年頃から一部の基線で伸びの傾向が認められます。



図 1 九重山 噴煙の状況（10 月 13 日、上野遠望カメラによる）

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 28 年 11 月分）は平成 28 年 12 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び、大分県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

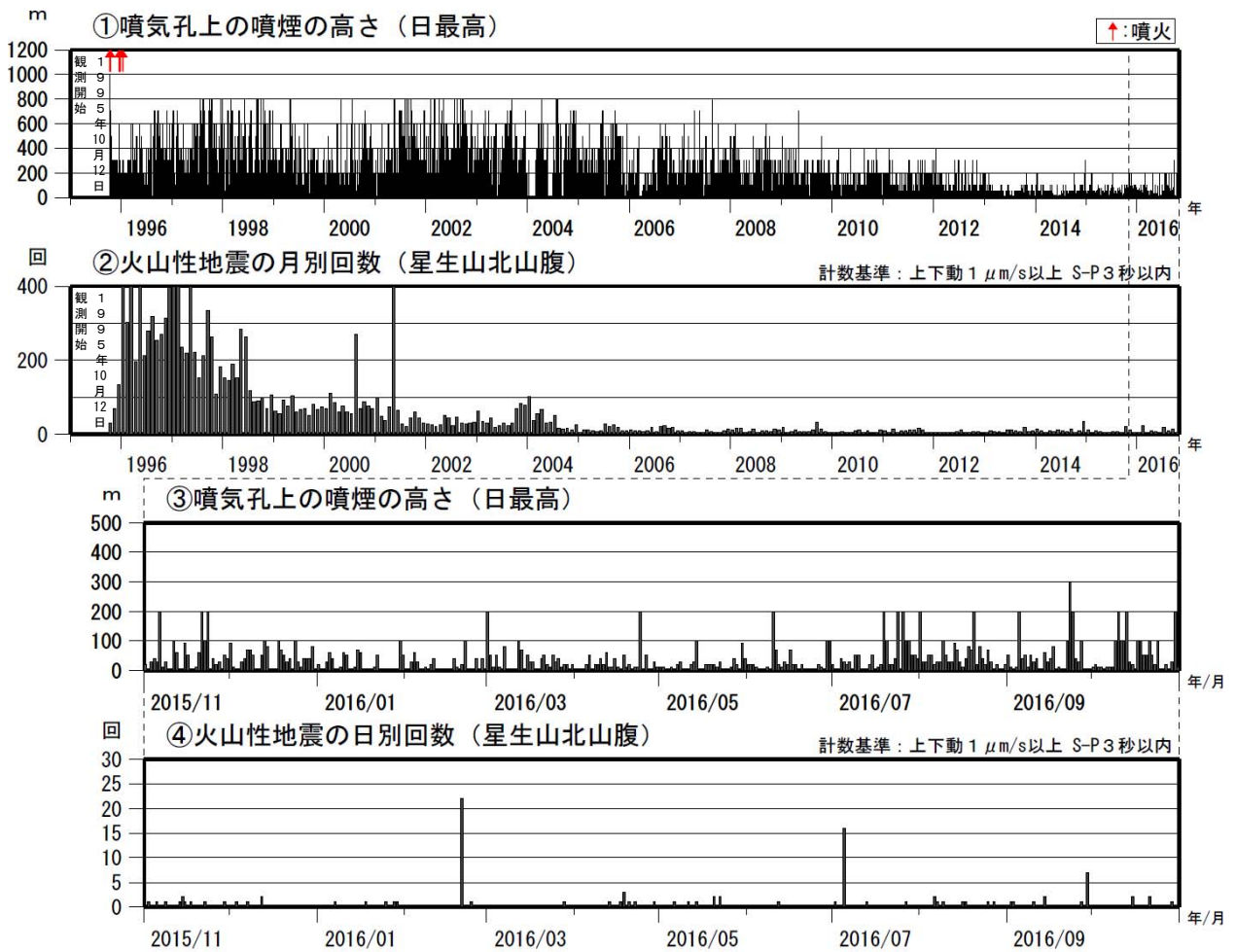


図2 九重山 火山活動経過図（1995年10月～2016年10月）

<10月の状況>

- ・硫黄山付近で白色の噴煙が最高で噴気孔上 200mまで上がりました。
- ・火山性地震の月回数は5回（9月：13回）と少ない状態でした。

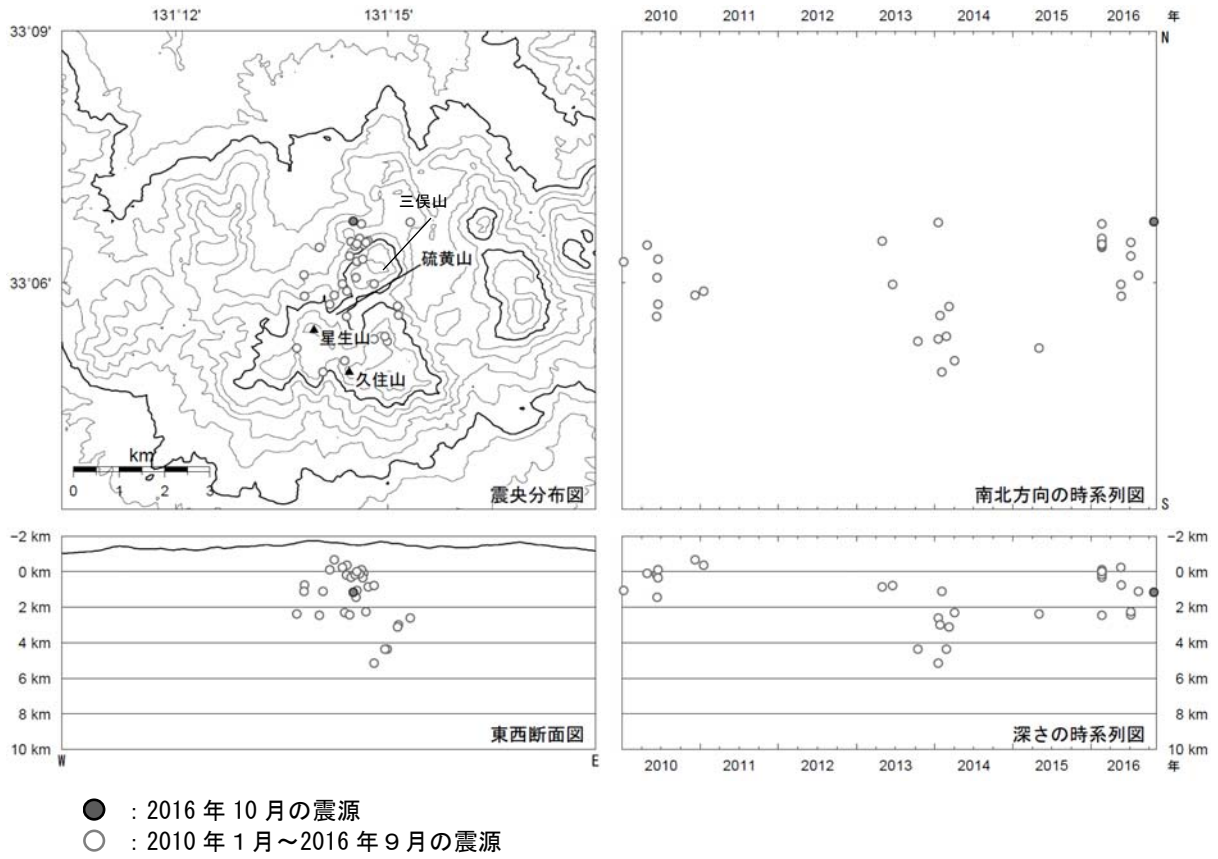


図 3 九重山 震源分布図（2010 年 1 月～2016 年 10 月）

<10 月の状況>

求まった震源は 1 個で、三俣山の北側の海拔下約 1 km でした。

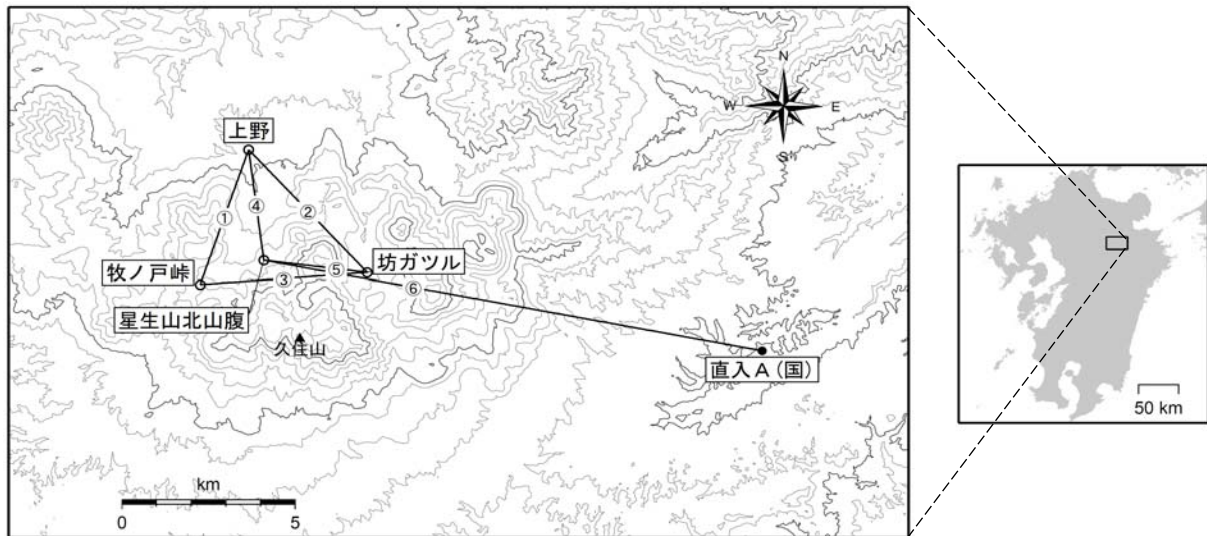


図 4 九重山 GNSS 連続観測点と基線番号

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
(国) : 国土地理院

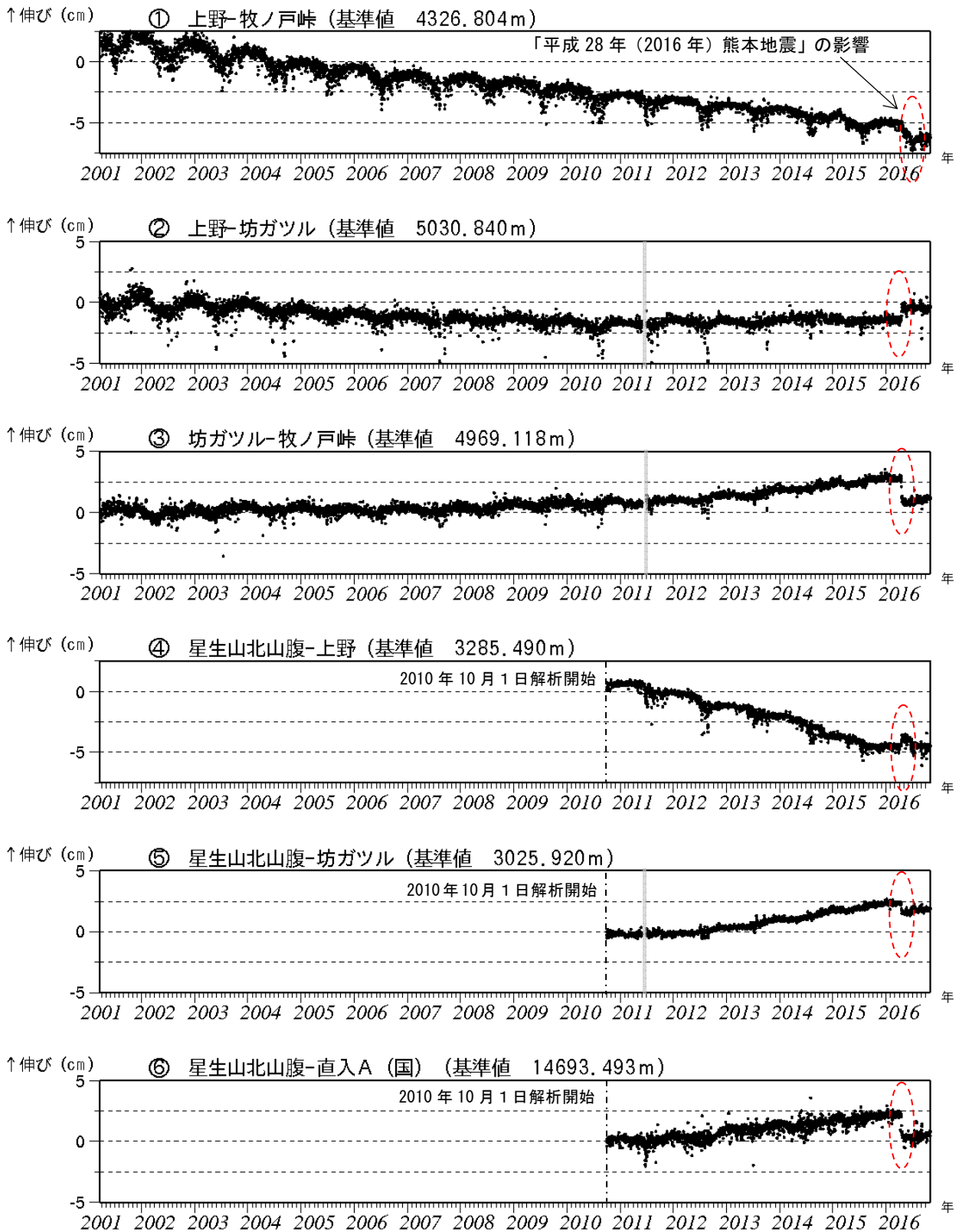


図 5 九重山 GNSS 連続観測による基線長変化 (2001 年 3 月～2016 年 10 月)

GNSS連続観測では、③坊ガツル-牧ノ戸峠、⑤星生山北山腹-坊ガツル、⑥星生山北山腹-直入Aの基線で、2012 年頃から一部の基線で伸びの傾向が認められます。

これらの基線は図 4 の①～⑥に対応しています。

2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。

灰色部分は機器障害のため欠測を示しています。

(国)：国土地理院

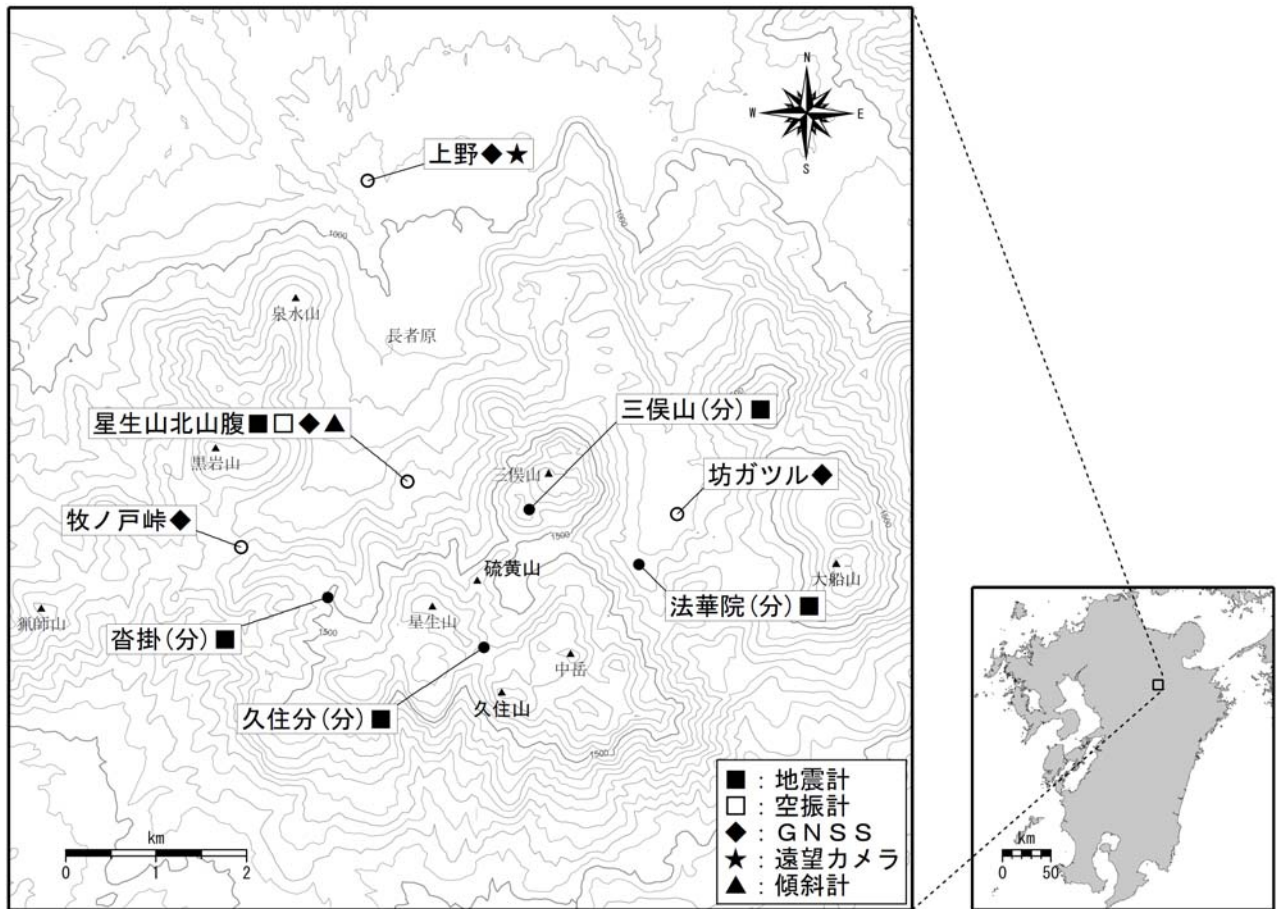


図 6 九重山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (分)：大分県